



# CONTENTS

## 特集 人形浄瑠璃「尻高人形」 3

小学校伝統芸能教室

## 道の駅「中山盆地」 5

高山村の農産物・物産が満載  
高山村の観光情報を紹介  
高山温泉ふれあいプラザ

## 写真で観る美しい自然 7

## 原風景をゆく「歴史の足跡」 11

史跡・文化財・祭り・伝統行事

## 高山村マップ 13

## 行政情報 15

自然と共に暮らすー生活環境の充実  
農林業を基幹に観光で活性化  
住民の実情に合わせた重点施策  
村の個性を生かした「高山村一貫教育」



### ■地勢

本村は群馬県の北西部に位置し、東西11.34km、南北10.63km、総面積は64.16km<sup>2</sup>です。東は沼田市、南は渋川市、西は中之条町、北はみなかみ町に、おのおの接しています。また、南北に1,000m級の山々が連なり、村の中央を西の方へ名久田川が流れています。村内は、地形が異なる二つの地区、盆地状の中山地区と、傾斜地で中之条盆地の一部である尻高地区に分かれています。そのため耕作地も標高420mから700mまで幅広く分布しています。

## ◎高山村民憲章

四方を緑の山々に囲まれ、すばらしい大地に育まれた私たち高山村民は、永遠の平和と心豊かな生活を願い、のびゆく村民の自覚に基づき、ここにこの憲章を定めます。

- 一、私たちは身体をきたえ、働くことに誇りをもち、豊かな村をつくりましょう。
- 一、私たちは郷土を愛し、教養を高め、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 一、私たちは老人を敬い、青少年の夢を育て互いに助け合い、福祉の村をつくりましょう。
- 一、私たちは花と緑を育て、公德心を養い、美しい環境の村をつくりましょう。
- 一、私たちはきまりを守り、笑顔で話し合える、あたたかい家庭と平和な村をつくりましょう。

### ■沿革

本村の黎明期は、古代にまでさかのぼります。その後、戦国時代には、交通の要所として各所に城が設けられ、城跡、合戦跡が今に残ります。近世になると、越後と江戸を結ぶ三国街道の宿場として、大いに賑わいました。江戸時代の宿場跡などから、当時の繁栄をしのぶことができます。繁栄は街道が廃止される明治初期まで続きましたが、その後、基幹産業を農業に切り替えました。明治22年、中山村と尻高村が合併して高山村になり、現在に至ります。

### ■村章

たかやまのたの字を図案化したもので、村の円満を象徴し、上部の山は飛躍し発展する高山村を表したものです。  
昭和46年2月10日制定  
村民公募入選作



## 村政要覧・発刊にあたって



高山村では、成人式を毎年お盆のふるさと祭りにあわせ8月15日に挙げています。それぞれ各地から故郷に戻り100%近く出席さ

れます。「田舎」とは幼少年期の懐かしい思い出がぎゅっと詰まった「ふるさと・原点」であると思います。都会育ちの人には味わえない温もりを感じます。都会にお住いの皆様田舎暮らしで、ふるさとを作ってはいかがでしょうか。

高山村は四方1100mほどの山々に囲まれた小さな盆地の村です。そこに広がる田園風景は「ふるさと」そのものです。

四季のうちで最もすばらしい春の原風景は訪れる皆様をきっとオゾンと共に癒しの自然へ案内いたします。また夏に於いても樹木間を縫って伝わる風は実に爽快です。初秋からは渡り蝶のアサギマダラが休息地として飛び交います。自然ばかりではなく、一般観望もできる県立ぐんま天文台をはじめ、県立北毛青少年自然の家、スコットランドから移築したロックハート城、道の駅中山盆地などの観光スポット、また4つのゴルフリゾート、緑の村キャンプ場、たかやま高原牧場など多くのお客様を迎えることが出来るようになりました。

これからも引き続き教育をはじめ産業、文化、福祉の振興等を図ると共に大きな課題である少子、高齢化、人口減少問題等に村民皆様と共に取組み、笑顔で輝く明るい村づくりを目指して参りたいと思います。

平成27年3月

高山村長 後藤幸三